



令和3年11月30日
上菅田笹の丘小学校
学校だより12月号

東京2020
オリンピック・
パラリンピック
応援ありがとう



上菅田笹の丘小学校 学校教育目標

自分大好き 仲間大好き

心かがやく上菅田笹の丘小学校



認め合える関係

校長 世古 正樹

朝晩の寒さが厳しくなり、冬の訪れを本格的に感じる季節となりました。早いもので明日からはもう12月、今年の最後の月となりました。気持ちよく新年を迎えられるように、様々な活動において、今年のとめをしっかりと行い、来年につなげていきたいと思っております。

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策にご協力をいただき、誠にありがとうございます。神奈川県感染者数は、10月以降、20人弱の少ない人数を維持しています。飲食店やイベントの制限が撤廃されたり、「GO TO トラベル」の再開が報道されたりと徐々に平常の生活に戻りつつありますが、まだまだ油断はできません。学校においては、引き続き十分に感染拡大防止対策を講じながら教育活動を進めて参ります。ご家庭におきましても、うがい・手洗い、十分な睡眠等、感染防止対策にご協力をどうぞよろしくお願いたします。

さて、10月30日（土）に本校の第2回運動会を無事に開催することができました。当日は天候に恵まれ、雲一つない晴天でした。分散登校後の限られた時間、限られた場所での練習でしたが、子どもたちはとても集中して練習に取り組み、当日は元気いっぱい、笑顔いっぱいに競技や演技に取り組んでいました。その一生懸命な姿は感動的で、閉会式の私のあいさつでは、子どもたちに「たくさんの感動をありがとう！！」と伝えました。ご参観いただきました保護者の皆様、あたたかい拍手をどうもありがとうございました。

閉会式のあいさつでは、次のようなことも話しました。

「楽しかった運動会も、もうすぐおしまいです。野球では、試合が終わるとゲームセット、試合終了といたします。サッカーでは、タイムアップ、時間切れとなります。でも、ラグビーは、試合が終わることをノーサイドと言います。ノーサイド、つまり敵も味方もない、みんながんばってきたのでみんな同じという意味です。みなさんも、これで運動会が終わるのでノーサイド、赤組も白組もありません。これまでがんばってきたお互いを認め合い、ほめ合ってください。そして、何より、今日まで一生懸命がんばってきた自分自身を思い切りほめてあげてください。」

同じようなノーサイドの場面は、今年の東京オリンピックの女子スケートボード・パークでもありました。予選で圧倒的に1位だった岡本碧優（おかもとみすぐ）選手は、決勝では、2回続けて途中でスケートボードから落ちてしまいました。金メダルを狙った最後の3回目、岡本選手は次々に大技を決めていき、最後の技でスケートボードから落ちなければメダルは確実でした。そんな中、岡本選手は、今までの練習の成果を発揮するために、最後に安全で確実な技ではなく、難しい技を選択しました。しかし、残念ながら技は失敗、スケートボードから落ちてしまった岡本選手はメダルを逃し、その場に泣き崩れました。ノーサイドの場面はその直後でした。泣きながら立ち上がった岡本選手に日本選手だけでなく、外国の選手も駆け寄り肩をたたき励まし、なんと岡本選手を担ぎ上げたのです。メダルを争ったライバルではなく、同じアスリートの仲間として岡本選手のチャレンジ精神に敬意を表し、その健闘をたたえたのです。担ぎ上げられた岡本選手は、泣きながらも笑顔でガッツポーズをしていました。今回のオリンピック・パラリンピックで、自分がとても印象に残った場面の一つでした。敵も味方も関係ない、国籍も関係ない、一人のアスリートとして認め合える関係は素晴らしいと思えました。一人ひとりを認め合うことの大切さや素晴らしさを、いろいろな場面で子どもたちに伝えていきたいと思っております。

令和3年最後の1か月、「子どもが元気で 笑顔が輝く学校」の実現を目指し、教職員一同、精一杯教育活動を進めて参ります。引き続き本校の教育活動にご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いたします。